

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

出願人代理人 辰巳 忠宏	様
あて名 〒 543-0001 日本国 大阪府大阪市天王寺区上本町5丁目2番1 1号 上六新興産ビル8階	

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
(PCT規則43の2.1)

出願人又は代理人 の書類記号 F Y 5 1 1 4 9 J P O W O	発送日 (日.月.年) 21. 8. 2004	
国際出願番号 PCT/JP2004/010970	国際出願日 (日.月.年) 30. 07. 2004	優先日 (日.月.年) 07. 08. 2004
国際特許分類 (IPC) Int. C17 A63C 17/01, 17/12		
出願人 (氏名又は名称) ヤマハ発動機株式会社		

1. この見解書は次の内容を含む。

- 第I欄 見解の基礎
- 第II欄 優先権
- 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- 第IV欄 発明の單一性の欠如
- 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- 第VI欄 ある種の引用文献
- 第VII欄 国際出願の不備
- 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 01.09.2004	特許庁審査官 (権限のある職員) 一宮 誠	2N	9511
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3275		

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、
以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ

配列表

配列表に関するテーブル

b. フォーマット

書面

コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期

出願時の国際出願に含まれる

この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. さらに、配列表又は配列表に関するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1, 4, 6 請求の範囲 2, 3, 5	有 無
進歩性 (IS)	請求の範囲 1 請求の範囲 2-6	有 無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-6 請求の範囲	有 無

2. 文献及び説明

文献1 (JP 2000-140190 A (株式会社ヴォーグインターナショナル) 2000. 05. 23
& CN 1292299 A & TW 450823 A)

文献2 (JP 10-211313 A (有限会社ニューテクノロジー研究所) 1998. 08. 11
(ファミリーなし))

文献3 (JP 10-23613 A (ヤマハ発動機株式会社) 1998. 01. 23 (ファミリーなし))

文献4 (JP 3052773 U (株式会社ベストウィッシュ) 1998. 07. 22 (ファミリーなし))

文献5 (JP 2001-259108 A (威美貿易有限公司) 2001. 09. 25 (ファミリーなし))

・請求の範囲第1項について

文献1乃至3は、当該技術分野における一般的技術水準を示す文献であって、動力用制御手段が収納ケースを備えたスケートボードについては記載されているものの、前記収納ケースの固定方法については記載も示唆もされていない。

・請求の範囲第2項、第3項、及び、第5項について

文献1乃至3には、収納ケースを有し、ボードに荷重が加わったときにボードの長手方向に沿って移動可能な支持手段、体重移動を検知するセンサ、及び、動力用制御手段としてコントローラまたはバッテリを含んでいることが記載されており、請求項第2項、第3項、及び、第5項に記載された発明は、上記文献1乃至3に記載されたスケートボードであり、新規性を有しない。

・請求の範囲第4項について

文献4には、柔軟構造材である合板からなるボードを有するスケートボードが記載されている。文献1, 2, 又は3に記載されたスケートボードにおいて、そのボードに、文献4に記載された柔軟構造材を用いることは、当業者にとって自明のものである。

・請求の範囲第6項について

文献5には、動力コントローラとしてモータと電力を供給するバッテリを用いた動力つきスケートボードが記載されている。ここで、バッテリとして複数の電池を相互に電気的に接続して用いることは、引用文献を挙げるまでもなく周知のことであり、文献1, 2, 又は3に記載されたスケートボードにおいて、コントローラに複数の電池を相互に電気的に接続して用いることは、当業者にとって自明のものである。